

発表を申し込む

学会で発表するための申し込み期間は、各学会のHP等で確認します。日本公衆衛生学会の場合、例年総会は10月下旬に開催され、演題募集期間は4～5月の2ヶ月間です。申し込みは、実際に発表を行う筆頭発表者が行います。筆頭発表者は会員であることが必要ですが、共同発表者は学会によっては会員以外でも認められています。

申し込み時に発表の内容を記した抄録を提出します。抄録は抄録集に掲載され、主催者は内容が関連する発表をまとめ、参加者の便を図るように運営します。採択審査がありますが、内容の優劣ではなく、研究としての条件を満たしているかという基本的な審査です。本稿でこれまで述べたようにしていれば、問題はありませぬ。最近各学会ともWeb上で申し込みを受け付けています。申し込み後でも、受付期間中であれば修正は可能です。

日本公衆衛生学会理事・評議員
(一財)宮城県成人病予防協会学術・研究開発室長
小島 光洋

発表をするのであれば、多くの人の関心を惹きたいと考えるのは自然でしょう。この要件の一つが独創性(オリジナリティー)です。いくらデータがきれいに揃っていても、すでに多くの同じ結果が出ているのであれば、二番煎じで面白みに欠けます。逆にこれまで誰も気づいていなかったようなことに気づいたら、それが現場からの実践報告としても大きな価値をもちます。多くの新発見は現場から生まれているからです。普段から内外の研究動向に関心をもっておくと、自分の発表の価値を客観的に判断できます。本誌も、そのための情報を掲載しています。

学会に参加すると、健康運動指導士・実践指導者の登録更新単位を得ることができます。筆頭発表者には、さらに2単位追加されます。積極的に参加し、発表にチャレンジしてみてください。